

政策目標 第1 市民環境力の更なる発展とすべての市民の支えられた「北九州環境ブランド」の確立

No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度	R5年度		R5年度	評価の理由		
					指標名等	現状値 (基準値)		R4年度	R5年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)		事業 評価	
1	⑦ ⑪ ⑫ ⑬ ⑰	地球温暖化対策推進事業	グリーン成長推進課	令和3年8月に改定した「北九州市地球温暖化対策実行計画」に掲げた目標の着実な達成に向け、市民、事業者、行政がこれまで以上に計画的かつ効果的に取組を推進する必要があるため、各種調査及び啓発事業の強化等を行う。	温室効果ガス排出量の削減(万t) ※中期目標改訂(R5年度目標設定時)	温室効果ガス排出量 1,897万 ↑ (2013年度)	目標 単年度目標設定なし	実績 —	達成率 —	単年度目標設定なし	2030年度温室効果ガス排出量2013年度比47%減	4,038	7,533	4,043	順調	北九州市地球温暖化対策実行計画の達成に向け、出前講演を通じた啓発事業等を実施したほか、温室効果ガス排出量については、毎年減少傾向を維持している。以上を総合して、「順調」と判断。
2	⑦ ⑪ ⑫ ⑬ ⑰	KitaQ Zero Carbon関連プロジェクト創出事業	グリーン成長推進課・環境学習課	KitaQ Zero Carbonプロジェクトの更なる普及拡大に向けて、学生が中心となった市民参加型啓発イベント等の企画・実施を、プロジェクトパートナーとの連携促進も含めて一体的にサポートすることで、Z世代への訴求力を高め、次世代のリーダーを育成するとともに、民間主導による自発的なプロジェクトの創出を促進するもの。	温室効果ガス排出量の削減(万t) ※中期目標改訂(R5年度目標設定時)	温室効果ガス排出量 1,897万 ↑ (2013年度)	目標 単年度目標設定なし	実績 —	達成率 —	単年度目標設定なし	2030年度温室効果ガス排出量2013年度比47%減	532	2,400	1,130	やや遅れ	KitaQ Zero Carbonポータルサイトへのアクセス数が15,221件と目標の25,000件を下回っており、市民や企業への情報発信が不足していたため「やや遅れ」と判断。
3	⑫	広げよう食品ロス・生ごみ削減の環づくり事業	循環社会推進課	食品ロス削減の取組「残しま宣言」運動の普及・啓発や、生ごみリサイクル講座等の実施によって、生ごみの減量化・資源化を推進する。	市民1人一日あたりの家庭ごみ量	468g (R1年度)	目標 単年度目標設定なし	実績 452 g	達成率 —	単年度目標設定なし	440g以下 (R7年度)	6,354	7,800	4,671	順調	市民団体「生ごみコンポストアドバイザーの会」とともに実施している生ごみリサイクル講座への参加者が着実に増加しており、地域に根差した活動が定着してきたと考えられる。 また、食品ロス削減の取組「残しま宣言」運動や、フードバンクと連携したフードドライブなどに取り組み、市民の環境意識向上や、生ごみの資源化・減量化の促進に貢献していると考えられることから「順調」と判断。
				市民アンケート調査における食品ロス削減の取組実施率	58.3% (R1年度)	目標 単年度目標設定なし	実績 61.6 %	達成率 —	単年度目標設定なし	80%以上 (R12年度)						

政策目標 第1 市民環境力の更なる発展とすべての市民の支えられた「北九州環境ブランド」の確立

No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）						R4年度	R5年度		R5年度	評価の理由
					指標名等	現状値 (基準値)		R4年度	R5年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業 評価	
4	12	3R活動推進事業	循環社会推進課	事業所に対する一般廃棄物の減量化等の推進及び3R活動を行う団体の表彰等により、3R活動の推進を図る。	一般廃棄物のリサイクル率	28.0% (R1年度)	目標	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	30%以上 (R7年度)	1,188	609	1,111	順調	事業所へのごみ減量化に関する講習会の実施や、ごみ分別・減量化意識を高める取組を行った。 3R活動実施率は、令和3年度に比べ上昇しており、3R意識の向上が進んでいると考えられるため、「順調」と判断。
						実績	27.9 %	26.6 %							
						達成率	—	—							
					市民アンケート調査における3R活動の実施率	86.9% (H28年度)	目標	86.9 %	86.9 %	86.9% (毎年度)					
						実績	85.7 %	87.6 %							
						達成率	98.6 %	100.8 %							
5	12	古紙・古着リサイクル推進事業	循環社会推進課	一般廃棄物の減量化・資源化促進のため、古紙・古着回収奨励金の交付等を通じ、市民団体による集団資源（古紙・古着）回収活動を支援する。	古紙回収に取り組むまちづくり協議会数	132団体 (H26年度)	目標	137 団体	137 団体	全137団体の参加 (毎年度)	135,349	190,050	127,800	順調	近年、電子化等による紙の使用量減少に伴い、古紙の集団資源回収量は若干減少傾向である。 古紙については紙の使用量の減少も影響していると考えられる。 古紙回収に取り組むまちづくり協議会の参加率は100%を維持しており、地域の活動は継続されていることから「順調」と判断。
						実績	137 団体	137 団体							
						達成率	100.0 %	100.0 %							
					一般廃棄物のリサイクル率	28.0% (R1年度)	目標	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	30%以上 (R7年度)					
						実績	26.6 %	27.2 %							
						達成率	—	—							

政策目標 第1 市民環境力の更なる発展とすべての市民の支えられた「北九州環境ブランド」の確立

No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度	R5年度		R5年度	評価の理由	
					指標名等	現状値 (基準値)		R4年度	R5年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)		事業 評価
6	⑨ ⑫ ⑬ ⑭ ⑰	北九州市プラスチックスマート推進事業	循環社会推進課	国の動向と歩調を合わせながら、これまでの取組に加え、更なるプラスチックごみの資源循環に向けた施策を推進する。	プラスチックの分別協力率	44.4% (R1年度)	目標	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	60%以上 (R12年度)	23,513	30,000	22,213	順調	令和5年10月からのプラスチック資源一括回収事業の開始に向けて、事業内容を市民に分かりやすく周知するために、市政だより・新聞広告・SNS等の様々な媒体を用いて広報活動に取り組んだ。 また、事業開始後も分別協力やごみ袋への不適物混入防止の啓発を継続して実施し、プラスチックごみ削減を推進した。 以上を総合して、「順調」と判断。
						実績	44.5 %	38.5 %							
						達成率	—	—							
					市民1人一日あたりの家庭ごみ量	468g (R1年度)	目標	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	440g以下 (R7年度)					
						実績	452 g	433 g							
						達成率	—	—							
7	⑫	地域特性型（メニュー選択方式）市民環境活動推進事業	循環社会推進課	地域団体等が自主的に活動する事業（剪定枝リサイクル等）を支援することにより、地域における自主的な環境活動の拡大と地域コミュニティ活動の活性化を図る。	市民1人一日あたりの家庭ごみ量	468g (R1年度)	目標	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	440g以下 (R7年度)	9,715	9,405	8,437	順調	市民1人一日あたりの家庭ごみ量は減少傾向である。 また、3R活動の実施率も高い水準を維持しているなど、環境意識の醸成及び地域コミュニティの活性化につながっていると考えられる。 以上を総合して、「順調」と判断。
						実績	452 g	433 g							
						達成率	—	—							
					市民アンケート調査における3R活動の実施率	86.9% (H28年度)	目標	86.9 %	86.9 %	86.9% (毎年度)					
						実績	87.6 %	85.0 %							
						達成率	100.8 %	97.8 %							

政策目標 第1 市民環境力の更なる発展とすべての市民の支えられた「北九州環境ブランド」の確立

No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度	R5年度		R5年度	評価の理由	
					指標名等	現状値 (基準値)	R4年度	R5年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業 評価		
8	⑪ ⑫ ⑭ ⑮	まち美化等啓 発事業	業務 課	<p>北九州市空き缶等の散乱の防止に関する条例（まち美化条例）に基づき、ポイ捨てのない清潔で美しいまちづくりを推進するため、市民や企業、ボランティア団体等と連携し、まち美化事業を実施する。</p> <p>市民の環境美化に対する関心及びモラル・マナーの向上を図り、「世界の環境首都」に相応しい清潔で美しいまちづくりを推進する。</p>	まち美化ボランティア清掃参加者数（単年度）	131,314人 (H28年度)	目標	138,000人	138,000人 (毎年度)	3,145	3,444	2,646	順調	<p>新型コロナウイルス感染症が収束し、減少していたまち美化ボランティア清掃参加者数もコロナ禍以前の水準に戻ってきており、目標を超える101.2%の達成率となった。</p> <p>また、アンケート調査における地域でのまち美化清掃実行の割合も、自主的な参加者の割合が増え、目標に対して75.7%の達成率（令和4年度から6ポイント増）となっており、「順調」と判断。</p>	
					※指標廃止（R5年度目標設定時）		実績	76,620人							
					達成率		55.5%								
				まち美化ボランティア清掃参加者数（H29～R3年度の平均値）	76,620人 (H29～R3年度の平均値)	目標	89,000人	89,000人 (毎年度)							
				※指標追加（R5年度目標設定時）		実績	90,031人								
				達成率		101.2%									
				アンケート調査における地域でのまち美化清掃実行の割合	47% (H28年度)	目標	60%	60% (毎年度)							
				実績		41.8%	45.4%								
				達成率		69.7%	75.7%								
9	⑪	ボランティアネットワークの推進（道路サポーター）	道路計画課	市が維持及び管理する道路において、道路清掃・美化などのボランティア活動を行う地域の団体を対象に、清掃用具や花苗の支給などにより支援する。	道路サポーター加入団体数	—	目標	245団体	250団体	250団体 (R5年度)	16,613	16,364	16,713	順調	市内全域の自治区会長へ加入促進PRしたこともあり、令和5年度の実績は、259団体であり、目標の250団体を上回っているため、「順調」と判断。
					実績		254団体	259団体							
					達成率		103.7%	103.6%							
10	⑪	ボランティアネットワークの推進（公園愛護会）	公園管理課	10名程度の地域住民で組織されるボランティア団体で、公園の美化活動・公園施設の点検や禁止行為の連絡・公園利用者のマナーづくり・市民花壇づくりなどを行い、活動面積に応じて活動費を助成している。	公園愛護会の結成数	—	目標	1,160団体	1,160団体	1,160団体 (毎年度)	42,627	42,676	43,433	順調	高齢化により、解散する団体が増加してきているが、全体としては目標の団体数を概ね達成しており、「順調」と判断。
					実績		1,121団体	1,101団体							
					達成率		96.6%	94.9%							

政策目標 第1 市民環境力の更なる発展とすべての市民の支えられた「北九州環境ブランド」の確立

No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）						R4年度	R5年度		R5年度	評価の理由
					指標名等	現状値 (基準値)	R4年度		R5年度		中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)	
11	①	ボランティア ネットワーク の推進（河川 愛護団体）	水環 境課	地域の住民で構成する河川愛護団体に 清掃道具購入の費用等となる補助金を交 付することにより、美化活動を広げる。 また、美化活動に参加することによ り、地域の河川を身近に感じ、自分たち の川として愛着を持つような啓発活動へ とつなげる。	河川愛護団体数 ※中期目標改訂 (R5年度目標設 定時)	—	目標 67 団体	67 団体	67 団体	67団体 (R5年 度)	2,100	2,634	2,100	順調	概ね目標に近い団体が活動しており、「順 調」と判断。
12	④ ⑰	NPO・市民活動 促進事業	市民 活動 推進 課	市民活動の促進に加え、NPOと行政の 協働を推進するため、活動や協働等に関 する相談・助言、情報提供、研修・啓発 等を実施する。	サポートセンター利 用者数	29,293 人 (R1年 度)	目標 20,000 人	20,000 人	20,000 人	20,000 人 (毎年 度)	16,524	17,434	15,890	やや 遅れ	新規設立NPO法人数は順調に推移するも、 サポートセンターの利用者数が目標を下回っ ていることから、「やや 遅れ」と判断。
					新規設立NPO法人数	17法人 (R1年 度)	目標 15 法人	15 法人	15 法人	15法人 (毎年 度)					
13	④	NPO公益活動支 援事業	市民 活動 推進 課	市民活動の更なる促進を支援するた め、NPO等が専門性を発揮して行う活動 に対し、事業費の一部を補助する。	補助交付事業件数 (累計)	109件 (R1年 度)	目標 140 件	150 件	150 件	150件 (R5年 度)	2,300	2,694	1,587	順調	補助採択事業の事例紹介については、中間 報告会を開催し事業周知に努めた。 また、補助交付事業件数は目標を概ね達成 したため、「順調」と判断。
					成果発表会の参加人 数（累計）	431人 (R1年 度)	目標 630 人	680 人	680 人	680人 (R5年 度)					

政策目標 第1 市民環境力の更なる発展とすべての市民の支えられた「北九州環境ブランド」の確立

No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度	R5年度		R5年度	評価の理由
					指標名等	現状値 (基準値)	R4年度	R5年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業 評価	
14	⑩	多様な主体による市民活動の輪づくり事業	市民活動推進課	市民主体のまちづくりを推進するため、市民活動への理解を深め、新たな担い手の参加を促すとともに、NPOと様々な団体間のネットワークづくりや協働を支援する。	NPOと企業・地域・大学等との協働件数	4件 (R1年度)	目標 5 件 実績 31 件 達成率 620.0 %	10 件 23 件 230.0 %	5件 (毎年度)	2,095	2,066	1,944	大変順調	多様な団体間のネットワークを構築し、協働件数が目標を上回っているため、「大変順調」と判断。
15	④ ⑦ ⑩ ⑪	「NPOとの協働によるまちづくり」人材育成事業	市民活動推進課	協働に関する理解を深めるための研修、協働事業を実施するために必要な団体運営力向上を図るための研修を実施する。 また、経済的に自立したNPOの増加を図るため、資金調達力や企画力の向上を図るセミナーを実施する。	NPOとの協働についての研修への参加者数（累計）	2,146人 (R1年度)	目標 2,500 人 実績 2,540 人 達成率 101.6 %	2,750 人 2,925 人 106.4 %	2,750人 (R5年度)	1,029	1,206	867	順調	NPOとの協働についての研修への参加者数が目標を達成しているため、「順調」と判断。
16	② ④ ⑥ ⑧ ⑨ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑰	生物多様性戦略推進事業	再生可能エネルギー導入推進課	都市と自然との共生「豊かな自然の恵みを活用し 自然と共生するまち」を基本理念に、生物多様性を保全し、将来にわたって持続可能な形で利用が可能な都市づくりを目指す。	環境首都100万本植樹プロジェクト推進（累計）	657,903本 (H27年度)	目標 937,000 本 実績 784,926 本 達成率 83.8 %	970,000 本 800,070 本 82.5 %	累計 100万本 植樹 (R6年度)	13,717	12,504	11,410	順調	環境首都100万本植樹プロジェクトによる植樹本数（累計）について、目標には届かなかったものの、プロジェクト全体としては順調に推移している。 また、自然環境保全活動参加者数は目標値を大きく上回っており、「順調」と判断。
					自然環境保全活動参加者数（イベント等の延べ参加者数）	2,000人 (毎年度)	目標 2,000 人 実績 2,000 人 達成率 100.0 %	2,000 人 3,100 人 155.0 %	2,000人 (毎年度)					

政策目標 第1 市民環境力の更なる発展とすべての市民の支えられた「北九州環境ブランド」の確立

No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度	R5年度		R5年度	評価の理由									
					指標名等	現状値 (基準値)		R4年度	R5年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)		事業 評価								
17	④ ⑰	環境ミュージアム管理運営事業	環境学習課	本市の恵まれた自然や充実した環境関連施設等をつなげ、多世代の市民が意欲や能力に応じて、エコツアーなどまち全体で楽しく環境学習が行える仕組みづくりを行う。	アンケート調査における環境活動を行う市民の割合	65.7% (H23年度)	目標	85.0 %	85.0 %	95.0% (R12年度)	3,343	3,120	3,043	順調	エコツアー参加者数は、3,269人と令和4年度より約570人増となった。 また、SNS等を通じた情報発信も継続的に行うことができ、成果指標の達成率も令和4年度より上昇するなど、一定の効果があったため、「順調」と判断。								
						実績	71.4 %	71.8 %															
							達成率	84.0 %	84.5 %														
18	④ ⑥ ⑦ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑰	環境ミュージアム及び北九州エコハウス維持管理業務	環境学習課	北九州市の公害克服の歴史を伝えるとともに、世界の環境首都を目指して市民の環境力を高めるための環境学習・環境活動・環境情報の総合拠点である「環境ミュージアム」及び家庭での省エネ型のライフスタイルを提案する「北九州エコハウス」等の管理運営及び様々なイベント、企画等により、環境学習や環境活動の場を提供するもの。	環境学習サポーターによる出張ミュージアム回数	80回 (H26年度)	目標	360 回	360 回	360回 (R5年度)	75,383	77,144	75,740	順調	環境学習サポーターによる出張ミュージアムの回数は令和4年度に比べやや増加した。 また、長期休暇を利用したイベントの開催や様々な企画展に取り組むことにより、環境ミュージアム利用者数が令和4年度よりも増加したため、「順調」と判断。								
								実績	291 回							295 回							
								達成率	80.8 %							81.9 %							
					環境ミュージアム利用者数（単年度）	134,124人 (H26年度)	目標	130,000 人	130,000 人	130,000人 (R5年度)													
							実績	75,475 人	76,579 人														
							達成率	58.1 %	58.9 %														
19	④	環境人財育成事業	環境学習課	市民一人ひとりが環境との関わりを理解し、より良い環境・地域づくりへの意識をもって行動を起こすことのできる環境人財を育むため、「環境首都検定」をはじめとする施策に取り組む。	北九州市環境首都検定の受検者数	2,424人 (H26年度)	目標	5,500 人	5,500 人	5,500人 (R5年度)	11,762	13,425	10,862	順調	受検啓発の実施（目標：20回、実績：5回）、受検者数は目標を達成しなかったものの、令和4年度に引き続き、一定程度の受検者数を得た。 加えて、全受検区分でWeb受検を実施したことにより、グループ受検団体数は令和4年度より増加（R4：80団体、R5：88団体）したため、「順調」と判断。								
		実績	5,751 人	4,669 人																			
		達成率	104.6 %	84.9 %																			
20	④ ⑰	ESD活動支援事業	環境学習課	持続可能な社会の構築を図るため、国連など世界規模で進められている「持続可能な開発のための教育（ESD）」を、北九州ESD協議会を中心に、市民、企業、大学等と連携しながら推進する。 具体的には、あらゆる人々が地域等における様々な課題に気づき、つながり、既に実践している活動等にESDの視点を加えて、暮らしや社会のあり方を変えていく人づくり・学びあいの場づくりを進める。	アンケート調査における「持続可能な社会づくり」を意識している市民の割合	—	目標	90.0 %	90.0 %	90.0% (R5年度)	19,619	19,913	18,899	順調	対面やオンラインを活用し開催方法を工夫しながら、「ESDツキイチの集い」や「韓国スタディツアー」「交流会イベント」等の事業を積極的に実施した。 また、「ESD出前講座」を市民センターや小中学校に積極的にアピールし、94講座も実施できたことで、「持続可能な社会づくり」を意識する市民の割合増加につながったため、「順調」と判断。								
						実績	83.4 %	91.2 %															
						達成率	92.7 %	101.3 %															

政策目標 第1 市民環境力の更なる発展とすべての市民の支えられた「北九州環境ブランド」の確立

No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度	R5年度		R5年度	評価の理由				
					指標名等	現状値 (基準値)		R4年度	R5年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)		事業 評価			
21	④	長野緑地を利用した農業体験教室	公園管理課	計画地内に複数の活動エリアを設け、一年を通してそれぞれのエリアで有機農業栽培管理や花作りを体験する市民参加による農地等の整備、管理等に取り組む。 また、子どもたちが自然の中で遊び、学ぶ場を提供したり、収穫物を使用したイベントなど、市民の参加を拡大するイベント等を開催する。	農業体験教室への参加者数	—	目標 2,000 人	実績 985 人	達成率 49.3 %	2,000 人	2,000 人	2,000人 (毎年度)	2,617	2,750	2,617	順調	教室の実施回数、参加人数ともに令和4年度より増加しているため、「順調」と判断。	
22	② ③ ④ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑫ ⑬ ⑭	市民環境力支援事業	環境学習課	市民環境力の持続的発展を目指し、環境モデル都市を推進する活動への支援や、市民・NPO、事業者など地域社会を構成する各主体が、情報を共有し、新たな取組を生み出し、発信・啓発する北九州エコライフステージ事業などを行う。	エコライフステージ参加者数（単年度）	142.4万人 (H24年度)	目標 150万人以上	実績 90.9 万人	達成率 60.6 %	150万人以上 (R5年度)	150万人以上 (R5年度)	150万人以上 (R5年度)	11,690	12,007	11,996	やや遅れ	エコライフステージに関連する行事数は、目標である200を上回る数を実施することができた。 一方で、エコライフステージへの参加者数については、若年層への周知が難しく、目標を下回ったため、「やや遅れ」と判断。	
23	④ ⑦ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑰	環境教育推進事業	教育情報推進課	「SDGs未来都市」への選定を受け、SDGs環境アクティブ・ラーニングとして小学校4年生を対象とし、環境ミュージアムやエコタウン等関連施設での体験的な学習および環境教育に関する研究を推進することにより、環境教育の充実を目指す。	環境学習の実施校 ※中期目標改訂（R5年度目標設定時）	129校 (R1年度)	目標 129 校	実績 107 校	達成率 82.9 %	全小学校 (126校) (R5年度) (休校中の学校を除く)	全小学校 (126校) (R5年度) (休校中の学校を除く)	全小学校 (126校) (R5年度) (休校中の学校を除く)	11,887	13,142	10,135	順調	希望した大方の小学校は、環境学習に参加することができ、参加した小学校から有意義に活動した旨の報告をうけているため、「順調」と判断。	
24	⑦ ⑨ ⑬	水素拠点化推進事業	グリーン成長推進課	企業単独での取組が困難かつイノベーションが必要な、水素（合成メタン・アンモニアを含む）やCO2の回収・利用・貯蔵のプロジェクトを支援する体制の構築に向け、ステークホルダーが参画する組織体を構築し、個別プロジェクト形成、国プロ獲得支援及び国への提言等を行うことで、製造業の脱炭素化に向けた投資を促す。また、FS・技術開発支援により企業の取組を加速させる。	水素需要量 ※指標追加（R5年度目標設定時）	0t (R4年度)	目標 —	実績 —	達成率 —	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	5,700t (R12年度)	4,200	37,100	24,079	順調	福岡県、九州電力（株）、西部ガス（株）、日本製鉄（株）など関連企業・団体、国や学識経験者と「福岡県水素拠点化推進協議会」を設置し、水素需要量調査、水素供給プロジェクトの検討、水素供給インフラ整備の検討、などに取り組み、2030年供給開始を目指した水素拠点の形成及びサプライチェーンの構築を推進した。 また、企業が取り組むFS（実現可能性調査）・技術開発を支援した。 以上を以て、「順調」と判断。	
					事業可能性調査実施件数	—	目標 2 件	実績 2 件	達成率 100.0 %	2 件 (毎年度)	2 件 (毎年度)	2 件 (毎年度)						

政策目標 第1 市民環境力の更なる発展とすべての市民の支えられた「北九州環境ブランド」の確立

No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度	R5年度		R5年度	評価の理由			
					指標名等	現状値 (基準値)	R4年度		R5年度		中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)		決算額 (千円)	事業 評価	
25	⑦ ⑧ ⑨ ⑪ ⑬	北九州市風力 発電人材育成 事業	環境 学習 課	風力発電関連産業の総合拠点として、 その機能を十分に発揮するには、人材の 「育成」と「確保」が必要である。 このため、「北九州市洋上風力キャン プ」を実施し、市内外の学生等の関心を 高め育成を図るとともに、「北九州市風 力発電人材育成連絡会」を通じた産学官 の連携による人材の確保を目指す。	人材育成に関わる関 連企業、教育機関を 含めた会議等の実施 (累計)	—	目標	24	回	39	回	54回 (R3～R6 年度)	32,737	36,000	27,585	大変 順調	「人材育成に関わる関連企業、教育機関を含 めた会議等の実施数」が目標39回に対して実 績66回と大きく(約1.7倍)上回ったため、 「大変順調」と判断。
							実績	39	回	66	回						
							達成率	162.5	%	169.2	%						
26	⑦ ⑧ ⑨ ⑫	脱炭素サブ ライチエーン支 援事業	サー キュ ラー エコ ノ ミー 推 進 課	市内企業に対し、脱炭素経営を促すた め、実際の成功事例の紹介などを行うセ ミナーを実施する。また、市内企業の環 境に配慮した製品や技術、サービスから 「北九州エコプレミアム」を選定し、広く PRすることで、市内環境関連産業の活 性化を推進する。	北九州エコプレミ アム選定件数 (単年度)	9件 累計190 件 (H26年 度)	目標	5	件	5	件	累計240 件 (R6年 度)	8,204	4,354	3,773	順調	北九州エコプレミアムの選定件数につ いて、単年度としては目標を下回ったが、中期 目標の累計240件に向かって着実に増やして いる。(累計236件) また、エコタウン事業の投資額について は、目標を上回っている。 以上から、事業全体を総合的に勘案し、 「順調」と判断。
							実績	4	件	3	件						
							達成率	80.0	%	60.0	%						
				エコタウン事業による投資額(単年度)	9億円 (H26年 度)	目標	7	億円	7	億円	7億円 (毎年 度)	12	億円	12	億円		
						実績	12	億円	12	億円							
						達成率	171.4	%	171.4	%							
27	③ ⑥ ⑪ ⑫	産業廃棄物処 理推進事業	産業 廃棄 物対 策課	産業廃棄物の適正処理・3Rを推進する ため、優れた排出事業者・処理業者への 認定やインセンティブ付与、排出・処理 動向や将来見通しの分析・公表、産業廃 棄物3R・適正処理講習会等を活用した適 正処理・3R情報の普及啓発を実施する。	優良産廃処理業者の 認定件数(単年度)	4件 (H26年 度)	目標	2	件	2	件	2件 (R1年 度以 降毎 年度)	9,035	14,105	11,435	大変 順調	令和4年度に引き続き、会場及びYouTube配 信による講習会を実施(受講者数710名) し、産業廃棄物の適正処理、3Rの推進につ いて啓発を行った。 また、優良事業者については、7社を認定 し、優良産業廃棄物処理業者及び排出事業者 の育成に寄与したことから、「大変順調」と 判断。
							実績	5	件	6	件						
							達成率	250.0	%	300.0	%						
				優良排出事業者の認 定件数(単年度)	2件 (H26年 度)	目標	2	件	2	件	2件 (毎年 度)	1	件	1	件		
						実績	1	件	1	件							
						達成率	50.0	%	50.0	%							

政策目標 第1 市民環境力の更なる発展とすべての市民の支えられた「北九州環境ブランド」の確立

No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度	R5年度		R5年度	評価の理由	
					指標名等	現状値 (基準値)		R4年度	R5年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)		事業 評価
28	③ ⑥ ⑪ ⑫	環境対策事業	環境 監視 課	環境法令に基づき、大気汚染や水質汚濁、騒音・振動の監視測定（環境モニタリング）などを行い、環境質の現状を把握し、維持・向上に努める。 また、市内企業を対象に、環境モニタリング結果等を共有し、環境保全を一層促進するため、環境モニタリングの結果や環境法令の概要、また不適正事案の防止策等に関するセミナーを実施する。	現状の環境を保全	—	目標	—	—	現状の環境を保全	46,340	46,161	47,126	順調	大気、水質、騒音、振動についてモニタリング計画を立て、測定を実施し、現状の環境の保全につながっているため、「順調」と判断。
							実績	—	—						
							達成率	—	—						
				企業の法令順守の徹底	—	目標	改善命令 0件	改善命令 0件	改善命令 0件 (毎年度)						
						実績	0 件	0 件							
						達成率	—	—							
29	② ③ ④ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭	環境施策広報 事業	環境学 習課	世界の環境首都を目指す北九州市の環境施策について、環境マスコットキャラクター「ていたん」を活用した広報・PRを継続して行い、市民の環境意識向上を図る。	アンケート調査における環境マスコットキャラクターの認知度	52.2% (H27年度)	目標	65.0 %	65.0 %	65.0% (R5年度)	9,512	9,370	8,549	順調	令和4年度と比べ、アンケート調査における環境マスコットキャラクターの認知度が、増加しており、目標を達成しているため、一定の効果があったものとし、「順調」と判断。
							実績	67.7 %	70.3 %						
							達成率	104.2 %	108.2 %						
30	⑫ ⑯	環境国際協力 推進事業	環境国際 戦略課	途上国技術者を受け入れる国際研修や経験豊かな市内企業技術者等を諸外国都市に派遣し、現地で相手都市も主体的に関わった実践的な技術指導を実施する。 また、国内外の関係機関と協働・連携した調査、情報収集や発信を行うとともに、各種都市間ネットワークを活用したプロジェクトを実施する。更には、市内企業や国際機関等と密に連携して、協力対象国や都市の「緑の成長」にも資する環境国際協力を目指す。	戦略的環境国際協力 事業の件数 (累計)	6件 (H26年度)	目標	15 件	15 件	15件 (R5年度)	1,566	3,000	2,410	順調	訪日研修や現地専門家派遣を実施したことにより、事業実施に係る現地派遣回数が、目標87回のところ、実績98回と、目標を達成したため「順調」と判断。
							実績	15 件	15 件						
							達成率	100.0 %	100.0 %						
31	⑤ ⑦	国際会議等 MICE事業の推 進	MICE・エン ター テイン メント 課	キーパーソン等へ本市の優位性（アクセス・施設・助成金）などをPRするなどの誘致活動を展開することにより、本市での国際会議・大会等のMICE開催を目指す。	MICE開催件数	183件 (H20年度)	目標	300 件	300 件	300件 (R5年度)	129,524	156,320	140,130	順調	令和5年度の国際会議・大会等の誘致件数（259件）は、目標（250件）を達成したうえ、令和4年度の件数（256件）を上回った。 MICE開催件数に関しては、目標は達成できなかったものの、令和4年度の件数を大きく上回ったことから「順調」と判断。
							実績	205 件	263 件						
							達成率	68.3 %	87.7 %						

政策目標 第1 市民環境力の更なる発展とすべての市民の支えられた「北九州環境ブランド」の確立

No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度	R5年度		R5年度	評価の理由	
					指標名等	現状値 (基準値)		R4年度	R5年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)		事業 評価
32	③ ④ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑪ ⑬ ⑬ ⑬ ⑬ ⑬	環境国際推進 事業	環境 国際 戦略 課	アジアカーボンニュートラルセンター を中核として、環境に関する多様な技術 や社会システム等を海外に輸出すること で、地域経済の活性化を推進する。 また、環境人材育成に係る研修の誘致 活動や研修の実施を通じて、アジア諸都 市における更なるビジネス案件の創出を 目指す。	アジア地域でのCO2 排出量を削減	目標			単年度目標設 定なし	H25年度 比75% 削減 (R12年 度)	—	23,180	14,267	順調	アジアの環境人材育成のための研修員等の受 講者数が、目標の8割を達成した。 加えて、アジア地域でのCO2排出量の削減 に向けた各種プロジェクトの推進数が目標の 255件を上回る279件となったため、「順調」 と判断。
						実績	本市CO2 排出量 1,835万 + (H25 年度)		—						
						達成率			—						
					アジアの環境人材育 成のための研修員等 の受講者数（単年 度）	目標	1,209人 (H26年 度)		460 人	460人 (毎年 度)					
実績			374 人												
達成率			81.3 %												
33	⑨ ⑫ ⑭ ⑭ ⑰	海外における カーボン ニュートラル 促進事業	環境 国際 戦略 課	本市がネットワークを有するアジア諸 都市において、温室効果ガス排出量削減 につながるプロジェクトを実施すること で、海外におけるカーボンニュートラル を促進するとともに、市内企業の海外ビ ジネス展開やGX（グリーントランス フォーメーション）を支援することで、 市内における「経済と環境の好循環」を 一層加速させることを目的とした事業展 開を行う。	対象地域におけるパイ ロット事業着手数	目標	6 件	8 件	8件(R5 年度)	4,848	9,200	5,100	順調	対象地域において、当初の計画どおり順調 にパイロット事業に着手しており、目標を上 回っているため、「順調」と判断。	
						実績	7 件	9 件							
						達成率	116.7 %	112.5 %							
34	⑦ ⑫ ⑭ ⑭ ⑰	サステナブル 環境ビジネス 展開事業	環境 国際 戦略 課	「SDGs推進」や「サーキュラーエコノ ミー推進」に適應する環境関連技術や製 品を持つ市内中小企業等の海外展開を支 援する。これにより、循環型社会及び脱 炭素社会の実現に貢献すると同時に、本 市の環境ビジネスの「ブランド力の向上 」と北九州市SDGs戦略の一つである 「技術と経験を活かした国際貢献の推 進」を実現する。	海外での実証事業等 の進出数（単年度）	5件 (R02年 度中小 企業ア ジア環 境ビジ ネス展 開支援 事業の 実績)	目標	3 件	3 件	3件 (R5年 度)	7,007	14,500	11,467	大変 順調	令和5年度は、海外渡航制限の緩和によ り、海外事業を再開する企業が増え、海外で の実証事業等の進出数が目標の3件を上回っ ているため、「大変順調」と判断。
					海外での実証事業等 の進出数（単年度）		2 件	4 件							
					海外での実証事業等 の進出数（単年度）		66.7 %	133.3 %							

政策目標 第4 将来世代を考えた豊かなまちづくりと環境・経済・社会の統合的向上															
No.	SDGs 目標 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)					R4年度	R5年度		R5年度	評価の理由	
					指標名等	現状値 (基準値)		R4年度	R5年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)		事業 評価
1	③ ① ⑫	大気汚染常時 監視システム 整備保守事業	環境 監視 課	大気汚染防止法第22条の規定に基づく 大気汚染状況の常時監視を行うため、公 害監視センターと市内に設置した常時監 視測定局から成る測定網の整備・保守を 行う。常時監視結果を本市の環境保全の 推進に役立てるとともに、大気環境の現 状把握に努める。	大気環境の適正な 把握	—	目 標	—	—	大気環 境の適 正な把 握	13,473	13,474	13,473	順調	測定装置の更新計画に基づき、適切に測 定環境を整備し、正確な測定を継続実施し たため、「順調」と判断。
2	③ ⑥ ① ⑫	環境対策事業	環境 監視 課	環境法令に基づき、大気汚染や水質汚 濁、騒音・振動の監視測定(環境モニタ リング)などを行い、環境質の現状を把 握し、維持・向上に努める。 また、市内企業を対象に、環境モニタ リング結果等を共有し、環境保全を一層 促進するため、環境モニタリングの結果 や環境法令の概要、また不適正事業の防 止策等に関するセミナーを実施する。	現状の環境を保全	—	目 標	—	—	現状の 環境を 保全	46,340	46,161	47,126	順調	大気、水質、騒音、振動についてモニタ リング計画を立てて測定を実施し、現状の 環境の保全につながっていると考えられる ため、「順調」と判断。
				企業の法令順守の 徹底	—	目 標	改善命令 0件	改善命令 0件	改善命 令 0件 (毎年 度)	実 績					
3	③ ⑥ ① ⑫ ⑭	工場・事業場 監視事業	環境 監視 課	市内の工場・事業場に対し、大気汚染 防止法・水質汚濁防止法等に基づいて、 立入検査及び排ガス・排水中の規制項目 に関する測定を実施し、事業者の環境法 令の遵守を監視するとともに、環境管理 の取組の促進を図る。また、市民からの 公害関係苦情・要望を受け、発生源に対 する指導を行う。	公害に関する苦 情・要望件数 (単年度)	243件 (H26年 度)	目 標	300件 以下	300件 以下	300件 以下 (毎年 度)	21,645	21,373	17,477	大変 順調	公害に関する苦情・要望件数は目標を達 成していること、工場・事業場に対する立 入検査や行政測定を計画的に実施してい ること、事業者向けのセミナー開催等による 苦情の未然防止を着実に推進していること 等から、「大変順調」と判断。

政策目標 第4 将来世代を考えた豊かなまちづくりと環境・経済・社会の統合的向上

No.	SDGs アール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度	R5年度		R5年度	評価の理由		
					指標名等	現状値 (基準値)	R4年度	R5年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業 評価			
4	⑦ ⑪ ⑫ ⑬ ⑰	地球温暖化対策推進事業	グリーン成長推進課・環境学習課	令和3年8月に改定した「北九州市地球温暖化対策実行計画」に掲げた目標の着実な達成に向け、市民、事業者、行政がこれまで以上に計画的かつ効果的に取組を推進する必要があるため、各種調査及び啓発事業の強化等を行う。	温室効果ガス排出量の削減（万t） ※中期目標改訂（R5年度目標設定時）	温室効果ガス排出量 1,859万t ↑ (2013年度)	目標 単年度目標設定なし	実績 —	達成率 —	単年度目標設定なし	2030年度温室効果ガス排出量2013年度比47%減	4,038	7,533	4,043	順調	北九州市地球温暖化対策実行計画の達成に向け、出前講演を通じた啓発事業等を実施したほか、温室効果ガス排出量については、毎年減少傾向を維持している。以上を総合して、「順調」と判断。
5	⑦ ⑧ ⑨ ⑬	脱炭素社会の実現に向けた ☞再エネ100% 北九州モデル ☞推進事業	再生可能エネルギー導入推進課	脱炭素社会の実現に向けて、 ・公共施設群及びエコタウンの再エネ100%電力化 ・EVを活用した自律型エネルギー実証 ・北九州都市圏域への再エネ普及促進 ・バイオマスエネルギー等活用推進 ・市有施設のZEB化に取り組む	PV・風力等再エネ導入量（kW・累計）	0kW (R3年度)	目標 512,980 kW	実績 451,417 kW	達成率 88.0 %	500,917 kW	756,946 kW (R12年度)	14,442	461,700	535,036	順調	国の交付金を活用した再エネ発電設備の導入は、電源ケーブルの納入遅れなどにより完工が遅れているが、再エネの導入量は、目標の8割以上を達成したため、「順調」と判断。
					C02削減量（t）	0t (R3年度)	目標 496,000 t	実績 349,143 t	達成率 70.4 %	485,000 t	累計 3,113,743tC02 (R4～R12年度)					
6	⑪	橋梁・トンネル・モノレール等の長寿命化への計画的な取り組み	道路維持課	市内には、約2,000の橋梁と39本のトンネル、総延長約9kmのモノレールがあり、高齢化・老朽化が進行していることから、予防保全の観点での長寿命化事業に取り組んでいる。 事業の実施にあたっては、施設毎に個別施設計画を策定し、5年に1回の定期点検に基づく計画的な維持管理を実施することで、市民の安全・安心を確保するとともに、トータルコストの縮減や予算の平準化を図る。 ・「北九州市橋梁長寿命化修繕計画」 ・「北九州市トンネル長寿命化修繕計画」 ・「北九州モノレール長寿命化計画」	主要橋梁及びトンネルの健全性向上による市民の安全・安心の確保	—	目標 —	実績 —	達成率 —	健全性Ⅱ以上	全主要橋梁及びトンネルの健全性Ⅱ以上（R9年度）	2,496,412	1,956,645	1,958,194	順調	橋梁、トンネルのリニューアル及びモノレールの長寿命化に向けた取組は、概ね計画通りに進捗しており、「順調」と判断。
					インフラ構造物の長寿命化を実施による、モノレールの安全・安心な運行の確保	—	目標 —	実績 —	達成率 —	—	全インフラ構造物の健全性Ⅱ以上（R8年度）					

政策目標 第4 将来世代を考えた豊かなまちづくりと環境・経済・社会の統合的向上														
No.	SDGs 目標 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度	R5年度		R5年度	評価の理由
					指標名等	現状値 (基準値)	R4年度	R5年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業 評価	
7	①	老朽空き家等 除却促進事業	空き 家活 用推 進課	倒壊や部材の落下のおそれがあるなど 危険な空き家等の除却を促進するため、 建築物の除却に要する費用の一部を補助 することにより、市民の安全で安心な居 住環境の形成を図る。	老朽空き家等除却 促進事業の実施件 数 ※中期目標改定 (R5年度目標設定 時)	202戸 (H26年 度)	目標 290 戸	300 戸	300戸 (毎年 度)	94,698	100,000	85,529	順調	当事業に対する市民からの関心が高く、 除却戸数が目標を上回ることが出来たた め、「順調」と判断。
8	①	空き家等活用 推進事業	空き 家活 用推 進課	近年増加傾向にある空き家に対し、市 民の安全・安心を確保するため、空き家 等発生未然防止から、流通・活用等の 促進に至るまで、「空家等対策計画」に 基づき総合的な空き家対策を推進する。	空き家に関する相 談件数	—	目標 300 件	300 件	300件 (毎年 度)	1,614	1,800	1,711	順調	空き家の予防及び管理・活用等に関する リーフレット及びチラシの配布、市内での セミナー・相談会の複数回開催等を行った ことにより、空き家に関する普及啓発が図 られたため、「順調」と判断。
9	①	官民連携空き 家再生総合戦 略	空き 家活 用推 進課	市が取得した空き家情報をもとに、空 き家所有者の売却意向を確認のうえ、民 間事業者へと橋渡しを行うことで、住宅 の建替えやリノベーションを推進し、利 便性の高い地域における居住環境の再生 に寄与する。 また、建替え等が困難な空き家につい ても、空き家問題の予防啓発を行うこと にも、空き家の利活用や除却等に向けた 総合相談など、包括的な空き家解消を目 指す。	建替えやリノーベ ーションによる空き 家の解消、空き家 問題 の予防啓発や総合 相談を行うことに よる空き家の解消	—	目標 単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	—	12,111	12,100	9,896	順調	取得した空き家情報をもとに、所有者調 査等を実施する空き家数が伸びており (R4：206件→R5：308件)、空き家解消に つながっていることから、「順調」と判 断。
10	⑥ ①	北九州市空き 家リノベー ション促進事 業	空き 家活 用推 進課	自ら居住し、既存住宅を取得する方を 対象に、エコに資するリノベーション費 用の一部を補助することにより、空き家 の流通促進とゼロカーボンシティの実現 に向けた住宅の脱炭素化を目指す。	エコ化対応にかか るリノベーション の実施件数	—	目標 100 件	100 件	100件 (毎年 度)	35,710	38,000	17,294	やや 遅れ	令和5年度より、補助対象を、子育て・高 齢化等対応工事等の複雑な補助メニューの 解消と、住宅の脱炭素化を推進する観点か ら、エコ工事のみに見直したが、エコ化対 応にかかるリノベーションの実施件数が目 標を下回ったため、「やや遅れ」と判断。
11	①	老朽空き家等 対策推進事業	空き 家活 用推 進課	人口減少や高齢化等が進む本市におい ては、今後も、適正に管理されず、周辺 の居住環境に悪影響を及ぼす老朽空き家 等の増加が続くことが見込まれることか ら、平成28年に制定した「空家等の適切 な管理等に関する条例」及び同年策定し た「空家等対策計画」に基づき、老朽空 き家等対策の強化を図る。	老朽空き家に関す る相談・通報件数	167件 (H26年 度)	目標 500 件	500 件	500件 (毎年 度)	5,726	24,561	15,900	大変 順調	効果的な普及活動により、相談・通報件 数が目標を大幅に上回ることが出来たた め、「大変順調」と判断。

政策目標 第4 将来世代を考えた豊かなまちづくりと環境・経済・社会の統合的向上

No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度	R5年度		R5年度	評価の理由
					指標名等	現状値 (基準値)	R4年度	R5年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業 評価	
12	③ ⑦ ⑧ ⑨ ⑪ ⑬	環境首都総合 交通戦略の推 進	都市 交通 政策 課	環境首都総合交通戦略は、本市での望ましい交通体系を構築するため、既存の公共交通機関を有効活用し、その維持や充実・強化を図る。 過度なマイカー利用から地球環境にやさしい公共交通や徒歩・自転車への利用転換を図り、市民の多様な移動手段が確保された交通体系を構築することを目指す。	市内の公共交通人口カバー率	基準値 86% (R3年度)	目標 単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	86% (R8年度)	131,099	208,893	192,234	大変 順調	令和5年度は、各種イベントへの出展等を行い、公共交通利用促進のPR活動を実施した。さらに、公共交通市内1日無料デーを行い、公共交通の利用促進策を実施したため、「大変順調」と判断。
						実績 —	—							
						達成率 —	—							
					人口10万人あたりの公共交通利用者数	基準値 3.8万人 /10万人 (R1年度)	目標 単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	3.8万人 /10万人 (R8年度)					
実績 —	—													
達成率 —	—													
公共交通に対する満足度	基準値 66.1% (R2年度)	目標 単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	70% (R8年度)										
	実績 —	—												
	達成率 —	—												
運輸部門CO ₂ 排出削減率	基準値 172万+ -CO ₂ (H25年度)	目標 単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	104万+ CO ₂ (R12年度) 40%削減										
	実績 —	—												
	達成率 —	—												
13	③ ⑦ ⑧ ⑨ ⑪ ⑬	地域の生活交通を確保する「おでかけ交通支援事業」	都市 交通 政策 課	おでかけ交通事業は、公共交通空白地域の中で一定の需要がある地域において、地域住民の交通手段を確保するため、採算性の確保を前提として、地域住民、交通事業者、市の三者がそれぞれの役割分担のもとで連携して、ジャンボタクシー等を運行する。 既運行地区におけるおでかけ交通の維持 ※中期目標改定（R5年度目標設定時）	8ヶ所 (H25年度)	目標 8ヶ所	10ヶ所	10ヶ所 (R5年度)	131,099	208,893	192,234	順調	三者（地域住民、交通事業者、市）で逐次調整・協議を行い、安定・安全運行の確保に努め、運行の維持ができたため、「順調」と判断。	
						実績 9ヶ所	10ヶ所							
						達成率 112.5%	100.0%							

政策目標 第4 将来世代を考えた豊かなまちづくりと環境・経済・社会の統合的向上

No.	SDGs アール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度	R5年度		R5年度	評価の理由
					指標名等	現状値 (基準値)	R4年度	R5年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業 評価	
14	⑩	広げよう食品 ロス・生ごみ 削減の環 づくり事業	循環 社会 推進 課	食品ロス削減の取組「残しま宣言」運 動の普及・啓発や、生ごみリサイクル講 座等の実施によって、生ごみの減量化・ 資源化を推進する。	市民1人一日あたり の家庭ごみ量	468g (R1年 度)	目標 単年度目標設 定なし	単年度目標設 定なし	440g以 下 (R7年 度)	6,354	7,800	4,671	順調	市民団体「生ごみコンポストアドバ イザーの会」とともに実施している生ごみリ サイクル講座への参加者が着実に増加して おり、地域に根差した活動が定着してきた と考えられる。 また、食品ロス削減の取組「残しま宣 言」運動や、フードバンクと連携したフード ドライブなどに取り組み、市民の環境意 識向上や、生ごみの資源化・減量化の促進 に貢献していると考えられることから「順 調」と判断。
					市民アンケート調 査における食品ロ ス削減の取組実施 率	58.3% (R1年 度)	目標 単年度目標設 定なし	単年度目標設 定なし						
15	⑥	若者ワークプ ラザ北九州運 営事業	雇 用・ 産 業 人 材 政 策 課	若者ワークプラザ北九州（小倉・黒 崎）において、概ね40歳までの若年層及 び氷河期世代の求職者を対象に、就業相 談、各種就業関連情報の提供、セミ ナー、職業体験、職業紹介等により、若 年者の就業支援を実施する。	就職決定者数	1,360人 (H30年 度)	目標 1,300 人	1,300 人	1,300人 (毎年 度)	78,096	83,955	81,469	順調	カウンセリング利用者数（10,586人）及び 就職決定者数（935人）が目標の7割りを超 えたため、「順調」と判断。
						実績 934 人	935 人							
						達成 率 71.8 %	71.9 %							
16	③ ④ ⑧	高齢者就業 支援センター 運営事業	雇 用・ 産 業 人 材 政 策 課	高齢者就業支援センターを拠点とし て、高齢者に対し就業支援を実施す る。また、就業に関連するセミナーを 実施する。	中高年齢者の就職 者数	768人 (H30年 度)	目標 700 人	700 人	3,500人 (R2～R6 年度)	32,501	32,422	31,618	大変 順調	中高年齢者の就業者数はシニア・ハロー ワーク戸畑等、関係機関との円滑な連携の 結果、目標を上回ったため、「大変順調」 と判断。
						実績 900 人	863 人							
						達成 率 128.6 %	123.3 %							
17	⑦ ⑧ ⑨ ⑫	脱炭素サプ ライチェーン支 援事業	サー キュ ラー エコ ノ ミー 推 進 課	市内企業に対し、脱炭素経営を促すた め、実際の成功事例の紹介などを行うセ ミナーを実施する。また、市内企業の環 境に配慮した製品や技術、サービスから 「北九州エコプレミアム」を選定し、広く PRすることで、市内環境関連産業の活 性化を推進する。	北九州エコプレ ミアム選定件数 (単年度)	9件 累計190 件 (H26年 度)	目標 5 件	5 件	累計240 件 (R6年 度)	8,204	4,354	3,773	順調	北九州エコプレミアムの選定件数につ いて、単年度としては目標を下回ったが、中 期目標の累計240件に向かって着実に増や している。(累計236件) また、エコタウン事業の投資額について は、目標を上回っている。 以上から、事業全体を総合的に勘案し、 「順調」と判断。
						実績 4 件	3 件							
						達成 率 80.0 %	60.0 %							
					エコタウン事業に よる投資額（単年 度）	9億円 (H26年 度)	目標 7 億 円	7 億 円	7億円 (毎年 度)					
						実績 12 億 円	12 億 円							
						達成 率 171.4 %	171.4 %							

政策目標 第4 将来世代を考えた豊かなまちづくりと環境・経済・社会の統合的向上

No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度	R5年度		R5年度	評価の理由	
					指標名等	現状値 (基準値)	R4年度	R5年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業 評価		
18	⑩	農作物生産振 興対策事業	農林 課	農業者が農業に関する正しい知識を理解し、適正に使用し、安全な農産物を生産する状態にする。	農作物の安全・安心確保（GAP〔農業生産工程管理〕に取り組む生産組織の割合）	12% (H27年 度)	目標 60 %	実績 51.6 %	達成率 86.0 %	60% (R5年 度)	323	1,049	303	順調	GAPに取り組む生産組織の達成率が86%であるため、「順調」と判断。
19	⑦ ⑧ ⑨ ⑫	環境未来技術 開発助成事業	サー キュ ラー エコ ノミ ー推 進課	新規性、独自性に優れた環境技術の研究開発費の一部助成により、中小企業をはじめとした地元企業等に技術開発の機会を提供するとともに、本市における環境分野の技術の集積を促す。	本助成事業で助成した研究開発の事業化数（累計）	27件 (H26年 度)	目標 39 件	実績 41 件	達成率 105.1 %	40件 (R5年 度まで)	38,310	48,000	40,009	順調	令和5年度までの助成件数（累計）のうち、事業化した件数は目標を上回っている。また、採択状況についても、着実に件数を伸ばしていることから、「順調」と判断。
20	④ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑪ ⑬ ⑮ ⑰	環境国際推進 事業	環境 国際 戦略 課	アジアカーボンニュートラルセンターを中核として、環境に関する多様な技術や社会システム等を海外に輸出することで、地域経済の活性化を推進する。 また、環境人材育成に係る研修の誘致活動や研修の実施を通じて、アジア諸都市における更なるビジネス案件の創出を目指す。	アジア地域でのCO2排出量を削減 アジアの環境人材育成のための研修員等の受講者数（単年度）	本市CO2 排出量 1,835万 t（H25 年度） 1,209人 (H26年 度)	目標 —	実績 —	達成率 —	単年度目標設定なし H25年度 比75% 削減 (R12年 度) 460人 (毎年 度)	—	23,180	14,267	順調	アジアの環境人材育成のための研修員等の受講者数が、目標の8割を達成した。加えて、アジア地域でのCO2排出量の削減に向けた各種プロジェクトの推進数が目標の255件を上回る279件となったため、「順調」と判断。
21	① ③ ⑥ ⑧ ⑨ ⑪ ⑫ ⑰	海外水ビジネス の推進	海外 事業 課	上下水道分野などの海外水ビジネスは、今後も人口増加や都市化の進展により市場の拡大が見込まれ、国の成長戦略においても、水分野等のインフラシステム輸出を推進するとされている。本市では、平成22年に「北九州市海外水ビジネス推進協議会」を設立。官民が有する技術力やノウハウを結集し、計画づくりから設計、建設、維持管理、事業運営まで、地場企業による水ビジネス案件の受注を目指して事業を展開。	市が関与するビジネス案件数	—	目標 6 件	実績 12 件	達成率 200.0 %	海外水 ビジネス を通じた 地元企業 の振興と 国際 貢献 7 件 116.7 %	82,717	115,108	70,157	順調	現在カンボジアやベトナムを中心に進めている国際技術協力を通じて築いた信頼関係を土台に、官民一体となり、海外水ビジネス案件や北九州市海外水ビジネス推進協議会会員企業への受注に繋げている。実績として、令和5年度はカンボジアでビジネス案件を7件受注したため、「順調」と判断。